

女艦長

エロア



表紙イラスト：恋河ミル

大熊狸喜

試し読み版

二次元ぶち文庫

当ファイルは、モバイル二次元ドリームにて配信された
『女艦長シュリア』
に基づいて作成しております。

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。



女艦長

エロ

大熊狸喜

表紙 / 恋河ミノル

二次元ぷち文庫

登場人物紹介

Characters

シュリア・ゴゴウ

高いカリスマ性と戦術能力を兼ね、部下たちからも絶対の信頼をよせられる女艦長。九十八センチHカップを誇る爆乳の持ち主でもある。

リリイ・リン・リーリイ

冷たい印象のツリ目が特徴的なヴァルキュリアの副艦長にして優秀副官。年下のシュリアを心底尊敬しているが…!?

イザブキ・サンジュウロウ

ヴァルキュリアの戦闘機隊長。粗雑で野性的な筋肉質の男で、シュリアのカリスマ性に惹かれ従っている。

——銀河西曆三千四百五十六年 七月八日——

銀河連合軍所属の高速宇宙戦艦「ヴァルキュリアス号」は本部からの指令を受けて、無限に広がる未開の宇宙を探求航海していた。

銀河標準時間朝七時。単独航行で宙を行く宇宙戦艦の艦長室で、一人の全裸女性が眠りから目を覚ます。ベッドの端に右手をついて白い肢体を起こすと、大きく実った二つのバストがタツプンと揺れた。

(……もう朝……また一日が始まる……)

シュリア・ゴゴウ。ヴァルキュリアス号の艦長であり、銀河連合軍の中でも名門であるゴゴウ家のお嬢様である若き女艦長はしかし、全裸に首輪だけを着けさせられるという屈辱的な格好をさせられている。さらにシュリアに対しこの艦内が異質なのは、女首を責め辱める捕虜尋問用の首輪だけではなかった。

最高士官であるはずの艦長室のドアは部下たちによって全開のままロックされていてさらにカードキーも奪い上げられており、艦長の意志で閉じる事は完全に不可能。衣服からベッドのタオルケットまで全てを押収された女性の部屋は、裸身を隠せる物など何一つない。さらに部屋の至る場所に監視カメラが取りつけられていて、人間が隠れられる死角など一ミリも存在していなかった。そして女性艦長の行動は部屋の内外を問わず全てカメラに監視をされていて、恥辱の全裸映像として記録され続けている。

つまり銀河連合宇宙軍所属の最新鋭高速宇宙戦艦ヴァルキュリアス号は、女艦長に対し上官としての威厳どころか、女性として最低限のプライバシーすら与えられない、異質で異常な、孤立した宇宙の密室空間となっていた。

「……トイレを済ませて：シャワーを、浴びたい：」

両手で裸身を隠しながらノロノロと重い足取りでトイレに向かい、用を足す。本来完全プライバシーであるはずの女性用トイレの中も、監視カメラの死角がない視姦空間にされている。和式便器を取りつけられたトイレにしゃがんで排便をする女艦長の秘されるべき姿は、あらゆる角度から盗撮されていた。

「んん：」

……ちよろろ：ちよろろろ——。

恥辱に上気したり排便で力む顔や背後斜め下からの肛門アングル、さらに便器内正面や斜め下横に取りつけられたカメラでの放尿女性器映像からペーパーでの後始末に至るまで、女性の排便に関するあらゆるプライバシーが一瞬も逃さず克明に録画されてゆく。

恥辱の排泄行為を済ませたシユリアは、やはり死角のない監視カメラが待つシャワールームで寝汗を流す。シャワーノズルから勢いよく暖かい湯が溢れ出すと、十代の若い肢体は艶めく程の張り艶で、流れる湯を弾いて輝いた。

百五十九センチという平均的な身長に、腰まで届く濃紺のサラサラヘア。大きな瞳は時

にキリリとして高貴な眼差しを見せながらクリクリとよく動き、年齢以上に童顔な印象を与える。スンと伸びた鼻筋は高く、桜色の唇は艶やかで小さく、愛顔だけでも最上級の女神像のように愛らしく涼やかな魅力に溢れていた。

湯を流すバストは九十八センチのHカップと見事な膨らみで、重力に負けず形よく天を向いていて、頭髮を流す腕に吊られるように、上へ左右へと柔らかく揺れている。上半身を支える腹部は柔らかく括れていてさらに前後に薄いのに、無駄脂肪のない女性特有的なお腹縦筋を柔らかく浮かせていて、五十六センチというウエストが見た目以上に鍛えられている事を魅せていた。

腹部両脇から緩やかに広がる腰は滑らかで艶っぽい大人へのラインを見せていて、パンと張りのある八十八センチのお尻はまだまだこれから挑発的に成熟してゆく未来を確信させている。お尻の深い谷間をお湯になぞられ、下腹部やお尻頬も湯に洗われる。

お尻柔頬の谷間で窄まる薄いカフエオレ色の肛門は、湯に濡れて淫靡な艶を浮かせ魅せている。引き締まった下腹部から柔らかく繋がる恥丘には極うつすらとしかヘアがなく、お湯に洗われる桃色割れ目も容赦なく監視カメラに盗撮されていた。

ムッチリと脂の乗った腿はヒザに向かって細く締まり、さらに足首に向かってスラリと細く長く伸びている。八頭身少女の持つ魅惑的な肢体を最上の形で現したような肉体を、シユリアは湯と戯れさせた。

「ふう……」

湯のシャワーを終えると風のようなエアシャワーで濡れた身体を拭う。そして室内に戻った首輪艦長は信じられない光景を目にする。

なんと最上級士官であるはずの艦長室内には、数人の下級男性乗組員たちが了解もなく勝手に入り込んでいたのだ。しかも全員、軍属とは思えない程だらしなく制服を着崩して、その風体はまるで軍隊崩れのチンピラだ。

「あ——あなたたち、ここは艦長室ですよ……っ！」

驚いて細い両腕で裸身を隠し年上部下たちを叱責する、艦内最年少の若き少女艦長。しかし遙かに階級が下であるはずの男たちは、年下上官の言葉に従うどころかニヤけながらイヤらしい視線で、弱々しく身を隠す首輪裸女の肢体を舐め回し視姦している。

「へッへ、朝食のお時間ですよ、艦長さまあ」

「ち、朝食ですって……っ！」

しかし男の手で運ばれてきた物は艦長用の食事どころか、捕虜にすら使用しない犬用の皿の上で、パンとシチューとペースト野菜とが雑にこね混ぜられた残飯のようなシロモノだった。軍隊にあつて、上官に対し有り得ない程の侮辱。人として当然の怒りを向ける女性士官だったが、その意志は数瞬で阻害されてしまう。

「こっこんなモノが朝食なんて……あなたたちは——あうっ！」

全裸の肢体に唯一着用させられている首輪から、媚弱だが防ぎ様のない官能伝波が送られてきたのだ。突然の官能波に身悶えさせられる、濃紺長髪の少女艦長。

「くう……あはううつ——首輪……つああつ……つ！」

シユリアが着けさせられている首輪は連合宇宙軍が戦闘状態にある、敵対帝国ジャンキユリアンの捕虜拷問器具である。知的だがブタに似て野蛮なジャンキユリアンは、敵対異星人の女性を捕らえると尋問と称して淫らな肉体責めを施し、身も心も辱めて貪り犯し屈服させるといふ淫辱性癖の持ち主だ。

捕らえた女の理性と性神経を自在に操る拷問首輪を着けられた、連合宇宙軍の女性士官は今、首輪から与えられる性感淫波によって性刺激をされる脳神経に鼓動を早められ、全身に霧吹きを吹かれたような汗を浮かせていた。

「か、からだか……ううう……つ！」

淫視線から両手で庇っていた身体は腰の力が弱められて屈曲し、弱々しく内股に震えている。肌の表面が内側から熱を持って上気して、体内最奥の子宮がジツトリ重い淫熱を帯びさせられてゆく。恥辱に頬染める女性士官の姿を、獲物のように取り囲みイヤらしく眺める男兵士たち。

軽く背中を押された首輪艦長は数歩だけ蹠跟けると、文字通り女々しくヒザと片手をついて、四つん這いならぬ三つん這いの姿勢にされてしまった。

「丁度いい、首輪も着けている事だし、そのまま犬みてえにメシを食い」

「なっ……何をバカな——っあううっ！」

上官に向かつて犬のように食事をしろなどと、正気とは思えない言葉だ。しかし抵抗の意志を見せようとした女艦長の首輪からさらに強力な性刺激淫波が流されると、性感を燃やされる女の肉体から抵抗の意志が抜かれてしまう。

不埒な下士官たちを伏し目がちに見上げながら、女艦長は屈辱の四つん這いになった。お皿に口を近づけようとしたシユリアの頭が、男の靴底でグリリと踏まれる。

「躰の成っていない女だな、いただきますは？」

「こ……い、いただき、ます……ぱく、もくもく……」

さらにコツコツと後頭部を踏まれ、床に置かれたお皿の混ぜられ食事に口をつけて、女艦長は朝食を摂った。

男性の下級兵士たちに取り囲まれながら、全裸に首輪だけを着けさせられた恥姿で四つん這いになって、まさしく犬のように食事を摂らされる銀河連合軍の女艦長。土下座をするように両手についてヒザを閉じて、しかしお尻を上げさせられて床に置かれたお皿に顔を埋める。

「見ろよ、名門ゴゴウ家のお嬢様が四つん這いになってメシ喰ってやがるぜ」

「しかも剥き出しの尻振り上げてよ、やっぱゴリツパなお家の方々は俺たち下々の貧乏人

とは常識が違うぜ。恥ずかしくねえのか？ ケツケケ」

「もつとでけえ尻クネリ上げるよ、マ○コ見せろや、ヒッハッハ」

男たちに頭を軽く踏まれながらニヤニヤと見下ろされて、さらに背後からは女体を批評する屈辱の罵り。両の掌を軽く踏まれたまま男の靴でお皿を遠ざげられると、お皿を追って背筋が伸ばされて、男たちの要求通りさらにお尻が突き上げさせられる。お尻谷間の肛門が光を浴びて、秘すべき秘処までもが痴漢兵士たちの視線に晒されてしまう。

「ようよう、マ○コ丸見えだせえ」

「ゴゴウ家のお嬢様は、裸でメシ喰う雌犬艦長様だぜえ、ケケツケ」

(ど…どうして、みなさん……！)

軍の名門出身だからこそ親の七光りなどと笑われたくなくて、シュリアは寝る間も惜しむ努力をして士官学校を主席で卒業した。シミュレーション戦闘での最高成績や不敗記録も実力で収めた成果であり、ゴゴウの名前に頼った事など一度もない。それなのに――。

(家の名前だけで……こんな…屈辱を…っ！)

悔しくて溢れそうになる涙を怒りで強く押さえ、シュリアは全裸四つん這いの食事を終える。ピカピカになるまでお皿を舐めさせられると、雌犬艦長には新たな恥辱行為が命じられた。取り囲む男たちは自らズボンのファスナーを降ろすと、勃起したペニスを見せつけるように突きつけてくる。

「セックスの為に身体と仲間を売るなんて、同じ女して軽蔑するわっ」

下士官たちの罵声に耳と心が貫かれる。しかしこれで、一時的とはいえ陵辱からは解放されるし、連合本部に帰れば証言の場だつて与えられて、濡れ衣だつて晴らす機会が与えられる。

(これで……)

確かに自分はまだ年若いから、年上である彼ら部下たちの信用がない事は艦長である自分にも、責任があるかもしれない。今はどんなに辱められても部下たちの陵辱を報告しなければ、いつかきつと彼らも自分の事を解つてくれる。そんな希望も、どこかにある。追い詰められ傷付けられた心の角で、少女艦長は僅かな安堵を感じていた。

そして性拷問から解放されると思つた首輪少女士官の肉体は、突然強い性快楽を感じさせられて官能に跳ねさせられる。屈辱の嘘白をさせられたシユリアを犯す陵辱男が、子宮を焦らすようなゆつくりと深い膣抽送を開始したのだ。

むっちゅ、つぶユリゅ又……ちゅプつぷ、ちゅツユぬるぷ…。

「——つくふうっ?! ……つはあああつ……ひゃなつ、あつ、かああ…つ、なつなぜつ——うはふうむふ——なぜえええ……つ?!」

「このまま解放したら、本部でどんな証言をされるか……なんといつても、あなたはセックスで我々を敵に売る、淫売女スパイですからねえ」

「そ……そんな、わたしはそんなこひやつ——きゅひゃああんっ！」

根本まで抜かれた勃起で、熱膣壁をかき分けられながらさらに奥深くにまで再姦通されて、次第にゆつくりと、抽送の速度が早められてゆく。

じゅっぴぎゅむゅっぷつ、つぶユリゆうつぢゅムきゅリユぶぢゅつ！

「やむっ——ひゃめへええっ……あつはあつ、きゅはああつ……わたし言わらひつ、イひまへんかりやはっ——はんつきやはあああああつ……！」

強姦パイロットに肉体を上下させられて、九十八センチの爆乳が左右対称の円を描いて揺れて、柔らかいお尻がプルプルと若い弾力を扇情的に魅せつける。

開ききった肉傘で膣壁を擦られながらギリギリまで抜き出されると、強烈な喪失感で子宮が追い詰められて牡肉を抱きしめる。秘唇を擦られながら子宮入口まで犯されると、濡れ媚洞から子宮までを一気に肉詰めにされてしまい、歪んで満たされた女肉の本能が強姦勃起を濡れ抱きしめて媚を売る。

さらに血管の浮く堅太い熱肉棒で容赦なく擦られる秘唇と膣壁は、強姦される喜びを男性が与えてくれる最上級のお情けだと、歪んだ形で教え込まれてしまう。そして首輪の快樂波で絶頂以上の快樂灼きに晒され続けている犯され女艦長の肉体と脳は、もう陵辱から逃れる為のものがきすらできなくされる程の、性快樂甘電に灼き上げられていった。

「ゴゴウ家の女スパイ艦長はその正体を暴かれて、敵の首輪によってセックス狂にされて

しまいました、てねえ……そうら、これでお前もイキ狂うんだっ！」

濡れ熱腔の締めつけを強姦で楽しむイザブキによって、女艦長の意識を破壊する為の強姦ストロークが、限界まで上げられる。

ぢユつぢゆぷつギユプぎユぷつ、るチュづちゆつヅユプづゆムぷつ！

「きゅつ——つあきゆひやあああああつ——ひやめつひゆるひいいつ——んくゆつひゆはああ……しんじゃ……おかひくなつてヒんりやふうううううううつ！」

受け止めきれない程の肉体性快楽に脳が混乱し、完全に呂律が廻らなくされる。リリイに嬲られて達させられた以上の性快楽を受けさせられているのに、無理矢理覚醒させられている理性によって達する事が許されない。

強姦男の激しい一突き毎にさらなる高みに叩き上げられて、しかし達する寸前のその度にギリギリの理性によって押し止められてしまう。子宮と理性と肉体と脳神経が限界以上の飢餓感で内側から押し潰され続けて、女の肉体で自身の脳が淫発狂への坂道をどうしようもなく転げ墮とされてゆく。

ドクンドクンドクンドクンっ！ たつぶブルムっブルんたゆンんっ！

心臓の鼓動が限界まで早められて、肌全体が性快楽で上気してゆく。激しい上下ストロークでHカップのバストは盛大に円運動をして、乳房全体が甘電させられて振られる媚突からの激性甘電によって脳と子宮が貫かれ続ける。お尻頬に食い込まされる指で腰全体の

力が完全に碎かれてしまい、男の腰を挟むように伸ばされた両脚は一切力を込める事ができなくされる。

快感暴力で身体と心が灼き狂わされてゆく絶対の強姦から逃れる術など、シユリアはもう残されてはいなかった。

「あぎゆはっ、んあっひんひゃああっ——はあっ、はあああああっ……ラめひえあっ、もふひやらきゃひゃああああっ！」

(もう……だめ……え——。)

肉体の全てが重みも熱も感じなくされて、目の前が強烈な発光明滅に包まれる。開かれた瞳が小刻みにわなないた時、強姦勃起が膣孔入口にまで引かれて一気に最奥まで犯し貫かれた。

「ゴゴウ家もこれでお終いだっ、犯されていき狂えっシユリア・ゴゴウっ！」
 つつズブヅムンっつ!!

「——っ!!」

熱堅い強姦肉で子宮壁を叩かれた瞬間、シユリアの肉体は絶頂を超えたさらに限界以上の性快楽、発狂性絶頂のさらに向こうにまで叩き上げられた。

「い——いきゆはひゃあああああああつっ！ あはつくはひゃはっ……ヒぬゃあぎゆくふうああうううっつ!!」

——つつびゆくリユウうつつ、ヒクつびくうつつ、ビクンびゆくんつつ!!

限界以上に膨らまされていた胎内の飢餓風船が、五体を砕くかと思われる程の淫爆発をさせられて、もはや自分でも何を言っているのか解らない程、脳神経が快樂灼きにされてゆく。全身がサアつと一瞬で桜色に染まり、背中が大きく反らされて全身の汗をパつと散らし、若い肢体が小刻みに痙攣をする。

開かれた瞳は瞳孔までもがヒクついて、止めどなく涙が溢れて流れ、溶けた眼差しは理性を失って淫墮に笑み、唾液をこぼす口許も歪んだ喜びで開口させられていた。

そして無垢な幼女のような笑みを浮かべる首輪艦長の子宮に向かつて、強姦魔の射精が行われる。

「自白の褒美だ、マ○コの奥で有り難く受け取りなっ」

つつびゆくぶユギゆビユウうつつ、ぶゆづびゆつどくブゆつ、ドロ
ぶゆううつつ、ぶゆううつつ!!

「あんあは、ひゃへい——あつひのオマ：ほまこひゃへい……あつあはあ……」

放尿のような勢いの精液で子宮壁を強く叩かれて、腰から全身が快樂痙攣でビクビクリと跳ねさせられる。濡れ膣孔からまで溢れる程の強姦射精に子宮が満たされてしまうと、これが女の随喜なのだという歪んだ喜びを、女性本能が認めさせられてゆく。

腰から波打つ身体を強姦男に抱かれ、何度もの腰打ちで全ての精液を子宮で受けさせら

れたシュリアは、シャワールームの床に捨てられるように惨めに転がされた。

そして残酷な強姦魔の手元で操られた首輪によつて、犯された女艦長は無理矢理に、ほんの僅かな理性を覚醒させられる。その途端、達したばかりの肉体は再び性絶頂の限界まで性感を押し上げられて、脳裏には恥辱の記憶が蘇らされた。強姦射精をされて再び淫火を灯された肉体と、陵辱された悔しさと絶頂させられた恥ずかしさに責められる自意識。

「気分はどうだい？ 女スパイさんよお」

「ああ——ああ……っ」

犯された肉体と踏み碎かれた自尊心が、ガラスの破片となつて少女の心に突き立てられるのに、女の肉体はさらなる性快楽の飢餓感に蝕まれる。意識が戻された途端再び首輪のパワーを限界まで上げられてしまい、シュリアは再び生き地獄へと突き墮とされてしまう。

「ひい——っ、くはう……はああう、くびわ……とめてええ……」

両手を背後に拘束されて、性淫熱に侵される半裸肢体を濡れた床でのたうち廻らせられる女艦長に、さらに男たちの淫らな陵辱が仕掛けられた。

「おいみんな、コイツは俺たちの命を売った女スパイだ。構うこたあない、好きなだけ犯して犯して、淫発狂させてやろうぜ」

「——ええ……っ!!」

余りに残酷な下級士官の言葉。少女艦長の脳裏が、もはや拭えない程の大きな絶望感で

覆われてゆく。

「さすがイザブキ隊長、そうこなくっちゃ！」

「あたしたちもこの女の恥ずかしい強姦写真、いっぱい撮ってやるんだから」

「……いや……もういやああ——きやああ……っ！」

脱力した身体で逃げようとした女艦長の身体が、数人の男の手で引きずられて開脚姿勢で持ち上げられる。ヒザをつく男性下級兵士に背後から抱かれて堅い勃起で肛門を突つかれると、一気に腸の奥まで無理矢理肉詰めになされてしまった。

「ふきゆうう……ふ——おひりひ……ひやあつ……っ！」

エッグローターで性感帯にされていた小さな肛門は、子宮を犯されて達させられた事で飢餓に悶える熱媚肛にされていて、長い男根を押しつけられただけで挿入を受け入れる程の恥知らずな肉孔に染め変えられていた。

長勃起を奥まで押し込まれた途端、強姦による充足感で腰が熱碎きにされる。薄壁を隔てた子宮では再び飢餓風船が大きく膨らまされて、脳はついさっきの強姦以上の絶頂感に襲われて呑み込まれて、しかし同時にさらなる理性で絶頂が止められてしまう。

獲物女艦長の前に陣取った別の男性兵士には腿を捕られてさらに大きく開脚をさせられて、太さだけが尋常ではない極太勃起を狭腔に姦入させられた。子供のヒジ近い程の太さを持ったペニスで濡れた腔壁を押し広げられると、その瞬間に肉体の絶頂と理性ブレーキ

で脳そのものが責められて、強烈な飢餓感で灼き染められてゆく。

「ややめてやめへええええつ——あぐうつ、ふぐむうふつ……はあつ、はああつ……カラ
ラが、こはれへ——ひやきやあああああつ！」

女の脳が狂わされてしまう程の官能を全く無視し、下級兵士の皮を被った強姦魔たちによる、自らの性欲を吐き出す為だけの淫欲抽送が始められた。

きユむつちゅつツぷゆゝツ、ちゅつキユぎゆむむりゅつ！

づプつちゅづぷりゅうつ、ヂユぶギゅヅプきゅヂユむつぢゅぷつ！

「いひっひぎひい——はみゃふふうつ……やはやはあつ、イちやヒちやふううつ！」

ペニスを引かれて腸壁を擦られるだけで、膣内で引き抜かれた牡獣肉を根本まで突き刺されるだけで、一瞬で肉体が絶頂をして同時に理性に押さえ込まれて、さらなる性欲求の淫火に脳と全身が灼かれる。

「そのエロい身体俺たちにも犯させろよ」

「こっちもだ、口も手も全身犯してやれ！」

（こ——これいじよ……され、たらあ……つ！）

上体を軽く右向きに捻られると、Hカップの爆乳谷間に直線的な男性勃起を挟ませられて、乳房を掴まれて胸陵辱をされる。強姦快楽で上気させられる愛顔をさらに右向きにさせられると、脱力した濡れ唇を横幅の広い硬化性器で塞がれた。

この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行

株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

<http://ktcom.jp/>